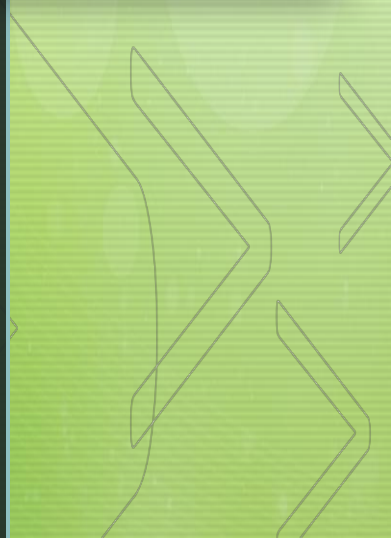




音楽部会



音楽部

音楽科を通した意志をもっている姿

聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けながら、自分なりの思いや意図をもち、音楽とより豊かに関わっていく姿

視点 1

自らの学びをつなぐ

【その姿に向かうために】

- 題材を通して、思考・判断のよりどころとなる『音楽を形づくっている要素』を絞り、表現と鑑賞、活動と活動との関連性が高まるように系統性のある題材構成をすることで、音楽的な見方・考え方を働かせながら、獲得してきた音楽科の学びと日常生活における学びや経験とつなげて、主体的に音楽を捉えて課題に向かえるようにする。
- 音楽表現の違いを聴き取ったり感じ取ったりすることができるように教材化し、教材提示の仕方を工夫することで、知識や技能を得たり生かしたりしながら、表したい音楽表現や音楽のよさを見いだし、自分なりの思いや意図をもち、見通しを立てて課題の解決に向かえるようにする。
- 題材を通して自分の変容を捉えたり、積み上げた学びを生かして題材全体を振り返ったりする場を設定することで、自分にとっての音楽のよさや面白さを、より豊かに見いだしたり捉え直したりして、次の音楽活動や日常生活につなげられるようにする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 子どもの表情や体の動き、「～みたい。」というつぶやきなどを『音楽を形づくっている要素』と結び付けながら価値付けていくことで、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、お互いに共有できるようにする。
- 音楽を可視化(文字化、図示化、動作化)しながら交流する場を設定し、音楽表現と言語活動を往還しながら関わることで、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、音や言葉による対話を通して音楽活動の学びを深められるようにする。
- 音楽を通して交流する際に、自分の音楽との違いに着目できるように促したり意図をもって声掛けしたりすることで、お互いの思いや意図を「知りたい。」と必要感をもって交流できるようにする。
- 題材を通して、音楽活動に浸る時間を確保したり、音楽表現を交流する場を設定したりすることで、他者の音楽的感受性に触れたり共感したりして、自分の音楽を捉え直し、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感できるようにする。

音楽部の成果と課題

【令和7年度の音楽部で目指した意志をもっている姿】

聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けながら、自分なりの思いや意図をもち、音楽とより豊かに関わっていく姿

次年度につなげていきたいことや方向性について

視点1 自らの学びをつなぐ

『音楽を形づくっている要素』の精査と、 題材を通して深める工夫

『音楽を形づくっている要素』の違いを聴き取ったり感じ取ったりすることができる教材を選定し、比較できるように提示した。そうすることで、一人一人が『音楽を形づくっている要素』の違いを自分なりに感受し、課題解決へと向かう姿が見られた。しかし、『音楽を形づくっている要素』の理解の深まりは見られたが、その要素を使いながら、自ら意志をもって音楽と豊かに関わる姿には課題が残る。

そのため、『音楽を形づくっている要素』のどの要素を入り口にすると、音楽的な見方・考え方を広げていくことができるのかを十分に吟味したり、子どもの姿を想定しながら系統立てたりして題材を構成することが必要である。そうすることで、既習の音楽的要素に着目し、これまでの知識・技能を生かしながら音楽活動へ向かおうとする姿となり、意志をもって、自ら音楽と豊かに関わる資質・能力が育成されていくと考える。

思いや意図をもち、自分なりの工夫を音楽に生かすための知識・技能を積み重ねる活動の強化

題材の『音楽を形づくっている要素』を絞り、教材との出合わせ方や教材曲を扱う順番を工夫して教材化した。そうすることで、『音楽を形づくっている要素』の働きの理解が深まり、「～な感じになりそうだから、〇〇を使ってやってみたい。」などと、表現や鑑賞の活動に生かす姿につなげることができた。しかし、工夫しようとする意欲はあったものの「前の曲で使った〇〇作戦が使えるそう。」などと自らの意志で音楽活動を試行錯誤する姿には、課題が残る。

そのため、日常の音楽活動を通して知識・技能を積み重ねたり、音楽活動に十分浸る時間を確保したりする必要がある。そうすることで、既習の知識・技能を生かしながら、「〇〇したい。」と意志をもって音楽活動を工夫していく姿、自信をもって音楽表現をする姿につながっていくと考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

『音楽を形づくっている要素』を活用していく ために、自ら動き出す交流の工夫

全体交流やペアで聴き合う活動を設定することで、柱となる『音楽を形づくっている要素』を中心にして、音楽活動と言語活動を往還しながら関わったり、音楽を可視化したりして音楽表現のよさを取り上げた。そうすることで、他者の音楽的感受性に触れたり、自分も「やってみたい。」という意欲を生んだりすることができた。しかし、自分の困りを解決するために他者を求めるような、自分から動き出す交流には至らなかった。

そのため、交流では『音楽を形づくっている要素』を柱にした困りなどを共有し、自分で解決の方法を選択したり交流したりする必要感を生み出し、自ら動き出せるような交流の在り方を改善していく必要がある。そうすることで、自ら意志をもって活動を選択したり試行錯誤したりして、自分の学びを深め、音楽とより豊かに関わっていく姿を目指す。

他者と交流することで、自分の音楽表現の 変容を実感していく教師の関わり

全体交流では、題材を通して、聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けながら、音楽を可視化する学習形態を積み重ねた。そうすることで、題材の柱となる『音楽を形づくっている要素』の音楽的価値を理解し、自らの学びを発展的な創意工夫へとつなげる土台づくりができた。しかし、一人一人が「前よりもよくなった。」と自分の音楽のよさに気付いたり、「〇〇の作戦が使えるそう。」と次の活動に見通したりして音楽活動を深める姿には個人差があった。

そのため、他者の音楽をヒントに「自分もできそう。」と思ったことを試行錯誤する時間を確保したり、自分で「なんだかよくなった。」と実感できる振り返りの場を設定したりする必要がある。そうすることで、次の活動の見通しへと学びがつながり、他者との関わりの中で自分の音楽活動を一層深める姿になっていくと考える。

【本題材で目指す意志をもっている姿とその理由】

曲のもっている特徴を捉え、自分なりの思いをもってよりよい表現の仕方を工夫している姿

低学年の児童は、歌うことが好きで、生活の中の音楽や音そのものを模倣して歌う傾向がある。一方で、全体での歌唱においては自己表現の意識が強く、自分の声を精一杯出そうとして、リズムや音程が不確かになったり、一定の速度を保てなかったりすることがある。そこで、歌唱表現を教材として扱いながら他者の表現を聴く活動を大事にする。友達の思いや歌い方に触れることを通して、自分の思いや表現と比べ、違いを見出したり、よりよい表現を見つけたりしながら自分が好きだと思える表現やそれに関わる楽しさや喜びを感じることができると考える。

【題材の目標】

- ・曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な歌唱や器楽の技能を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- ・リズム、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表現するかについて思いをもてるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・互いの声や音を聴き合いながら、階名で歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

音楽を形づくっている要素を通した感受と表現

これまでの題材で扱ってきた「音楽を形づくっている要素」を毎時間確認することで、曲を捉えたり、表現したりすることにつなげていく。また、年間を通して鑑賞から歌唱、歌唱から器楽演奏、また鑑賞から音楽づくりというような流れを構成した。本時では特に範唱や歌詞から感じ取ったものを全体で共有し、器楽演奏につなげていく。そうすることで、漠然とではなく、感じ取ったものから「こうしたい。」という思いをもって表現できるようになると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

表現の可視化と言語化

自分以外の表現に触れ、自分との違いを感じ取り、その根拠を知ることによって更に自分なりの工夫をしていけると考える。そのために、お互いの意図をよりよく伝える必要がある。共通のイメージや言語、身体活動を積み上げることで学びの土台を築いていきたい。また、全体で確認できる譜面を置き、音楽を可視化しながら他者を媒介として自分の表現をさらに高めていくことをねらった。2年生の序盤ということで、他者の表現も全体で丁寧に扱っていく。

【題材構成（11時間扱い）】

1次（1～2時間目）	2次（3～5時間目）	3次（6～8時間目）	4次（9～11時間目）
音の高さや曲の様子に気を付けながら、歌ったり演奏したりしよう。			
『ドレミのうた』を聴いて、面白いところを見つけよう。	『かっこう』を聴いて、想像してみよう。	『かえるのがっしょう』を聴いて、想像してみよう。	『ぶっかりくじら』を聴いて、想像してみよう。
明るいところ、暗いところがある。 歌詞の中に「ドレミ」が入っている。 音がどんどん高くなっていく。 「ドレミ」によって音の高さが違うところが面白いね。 歌ってみよう！ 音によって体（手）の高さを変えてみよう。 人数を増やすと、元気な感じがするよ。 曲の面白さを伝えるためには、いろいろな歌い方があるね。	（本時）どんな風に歌おうかな？ 遠くにいそうだから、小さい声で歌ってみよう。 飛び跳ねる感じでは、どうやって出そうかな。 （範唱を聴いて）体を動かしていたら、うまく歌える気がするよ。 3拍子だから、1、2、3に乗せて歌ってみよう。 せんりつ リズム 音色 音の強弱 体を動かしながら歌っていたら、歌に強弱がついたみたい。 どこにいるのか想像できる歌い方だったよ。 音を短く切って跳ねている様子を表せたよ。 曲の様子や歌詞から考えて、自分なりの表現で歌うことができたよ。 どんな風に演奏しようかな？ 鍵盤の演奏でも音を長くしてなめらかにしたり、短く切ったりしながら演奏できるんだね。 音の高さと鍵盤の離れ方が似ているね。飛び跳ねるように演奏できるんだね。 歌で表現したように、楽器でも演奏することができたよ！		
			ドレミの音の高さを感じながら、自分なりの表現ができた。
			表現の楽しさやよさを実感。これからの表現活動へ。

【本時の目標】

音の高さや歌詞の表す情景や気持ち、言葉の感じに合った歌い方について考える活動を通して、自分の思いをもって表現しようとすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（3/11）

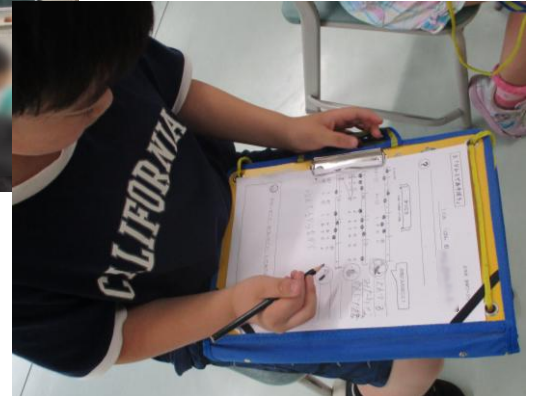
子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
＜前時まで＞ 「かっこう」を何度か歌い、曲の感じを掴んでいる。歌詞の表す情景を想像して、学級でのイメージ図を共有し、曲に合った歌い方で表現しようとする思いをもっている。		
○これまでの歌った歌を通して、体を使いながら既習の確認をする。 かくれんぼは、「まだだよ。」の返事をしている場所で表現を変えてみよう。 3拍子の曲だな。 2拍子の曲だな。 拍を感じながら歌おう。 「かっこう」を歌ってみよう！ どんな風に歌おうかな？ どこを工夫しようかな。 かっこうの声ってどんなのだったかな。 もう一回歌を確認してみようかな。 せんりつ(音)から 「かっこう」の声のように歌ってみよう。 「よんでるよ」が、「かっこう」の部分と違って、長いね。 真ん中の段は、上がっているから盛り上がるように歌おう。 歌詞から 「しずかに」の部分は、静かに歌ってみよう。 「ほらほら」は、呼びかけるように歌いたいな。 やさしく？元気に？どちらで歌おうかな。 音色 リズム 音の強弱 「かっこう」の「か」を大きく短く歌うと、かっこうの声みになるね。 小さい声から大きい声で歌うと盛り上がる感じがするよ。 音が小さいからかっこうが遠くにいる感じがでているね。	音楽を形づくる要素 歌い方の工夫 表現の可視化 せんりつ 音色 リズム 音の強弱	前時までに積み上げてきたそれぞれの曲を確認することで、音楽を形づくっている要素や歌い方の工夫を取り入れながら、表現できるようにする。 (視点1) 自分の表現を伝えられるように、これまで使っていた言葉やイメージ図、体を使った表現などを想起できるようにかかわる。 三段に分かれた譜面の中で、自分の気に入った場所（工夫したい場所）が分かるようにネームカードを位置付ける。そうすることで、自分とは違う工夫に気づき、それぞれの表現の違いを体感し、よりよい表現を選択できるようにする。 (視点2)
○全体で歌う 曲の様子や歌詞から考えて、自分なりの表現で歌うことができたよ。 ○振り返り いろいろな表現を試したけれど、これがいいな。 他の人の表現の仕方を聞いて、いい歌い方が見つかったよ。 鍵盤ハーモニカでも、歌を歌うみたいに強弱を付けて演奏してみた。 ○次時について ・鍵盤ハーモニカで演奏するために階名唱	歌唱から器楽演奏へつなげる	階名唱をすることで、歌唱での工夫を器楽演奏に生かそうとする意欲につなげる。 (視点1)

【本時の評価】

音の高さや歌詞の表す情景や気持ちを伝え合い、自分がよいと思う表現を見付け、自分なりの表現をしようとしている。
(行動観察・演奏聴取・発言内容・ワークシート)

授業後の振り返り

【本時の様子】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 学習で扱った教材曲をその時だけではなく毎時間扱うことで、新しい曲と出会ってもすぐに子どもたちから音楽を形づくっている要素に着目して音楽の特徴を捉える姿が見られた。
- 提示する楽譜とワークシートを区切って対応させることで、子どもたちが今どの部分について考えているのかを明確なるようにした。一人の話を聞いて全体がどの部分について言っているのかが分かり、反応する様子が見られた。

【課題】

- 何度も歌って試す場面の少なさから、自分の気に入った歌い方（表現の仕方）を探すまでに至らない子どもがいた。歌い方の違いを実感するためにはある程度人数が必要だと思い、意見を聞いて全体で捉えるという形式を取ったが個々に歌って、その表現を確かめられる時間を保証してあげるとより自由にたくさんの表現が生まれてくると考える。ワークシート上だけでなく、友達の歌から自由に「表現の方法はたくさんある」と感じ取る方法もあるのではないかなと思う。
- 歌は歌うだけでなく、聴いて何をよいと感じるかが大切だが、何がよくて何がよくないのかを他に伝えるように表現することがまだ難しかった。そこで、音楽を形づくっている要素だけでなく、「〇〇のところが～な感じがする。」といったような音楽の受け取り方もあわせて学習できるようにしていくともっとお互いの音楽を聴き合い選び取る姿を引き出すことができたと思う。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 「歌詞」（言葉）に注目して表現を考えたことで、「こんな風に歌いたい。」ということが分かりやすくなった。言葉の他にも動きやイメージの絵で表現することで、歌や言葉にはならないが、全体にどんな風にしたいかを伝える力を育むことにつながった。
- 音楽の学習の仕方を学んでいる途中の段階において、一つ一つを区切ったり、一人の意見を全体に共有する方法を進めたりすることで、自分と友達の違いに気付くことができた。違いに気付けるから他者が必要になる、という他者の学びを自らの学びにつなぐ最初の一步になると考える。

【課題】

- 音楽を形づくっている要素を中心として、歌い方を考えていくことは低学年にとって難しい。だからこそ、教師のかかわりとして子どもたちが表現したことと要素を関連させていく必要がある。しかし、今回テーマにしたことが「歌詞」だったため、要素に関連させるには、「寂しい場面だから弱く」「呼んでいるから長く」といった技能面にしかない。（改善案としては、この段階の子どもたちに歌詞を取り扱わないこと）
- 自分の表現がどうなのかを実感することが難しかった。お互いに聴く場面を増やすことで一人一人がどう考えたか、どう感じたかを見取ることにつながり、表現の仕方の幅が増やせたと思う。

【本題材で目指す意志をもっている姿とその理由】

『旋律』の特徴を聴き取ったり感じ取ったりすることで、曲想に合うように表現の仕方を工夫していく姿

「春の小川」や「あの雲のように」では、曲から感受するイメージは、歌詞や旋律の動きなどが関係していることを学習した。全校合唱「マイバラード」では、高学年の歌声を聴くことで「高音がきれい。」と感じ取ったり、自分達も美しい歌声になるように練習を重ねたりすることで、発声の仕方や歌唱表現が上達してきている。

本題材は、音楽的要素「旋律」を軸として、「歌唱」「鑑賞」を関連付けながら、段階的に『旋律名人の道』を構成した。1次では、「旋律」の部分比較を通して、その違いを聴き取ったり感じ取ったりして歌唱表現していく。2次の鑑賞では、図形楽譜を比較することによって「旋律」の特徴に目を向け、さらに体の動きを伴った活動を通して「旋律」の働きが生み出すよさを聴き取ったり感じ取ったりして、音楽的要素に着目した根拠のある曲想の捉えをしていく。そして、一人一人が思いや意図をもって歌唱表現を工夫する活動へと学びをつなぐ。

【題材の目標】

- ・曲想と歌詞の表す情景や気持ち、演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- ・旋律、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表現するかについて思いをもてるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・互いの声や音を聴き合いながら、階名で歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

曲の部分と比較し「旋律」の面白さや特徴に気付く

1次では、特徴ある「旋律」の部分と比較することで、一人一人が捉えた曲想の根拠を「旋律」の特徴と結び付けて価値付けていく。題材を通して図形楽譜による「旋律」の可視化、体の動きを伴った活動を位置付けることで、順次進行・躍動進行などの「音の連なり方」、音の上がり下がりなどの「音の動き方」の面白さを実感できるようにする。3次では、歌詞だけを提示したり教師が弾いた主旋律だけを聴いたりする。自分なりに捉えた「旋律」の特徴を基に、曲想に合う楽曲全体の表現の工夫につなげられるようにする。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

曲想に合う表現を交流し「旋律」の特徴を関連付けていく

歌詞の言葉や情景、「旋律」の音の動きを根拠に「曲の山」を見付けていく。全体交流では、友達が発表した部分を体の動きを伴う活動で試したり、図形楽譜と結び付けたりして一人一人の気付きを「旋律」の特徴と関連付けながら価値付けていく。「曲の山」を生かして表現を工夫する活動では、友達と聴き合い、表現を試したり取り入れたりして学びを深めていく。聴き取ったことや感じとったことを生かして曲想を捉え直し、音楽とより豊かに関わる姿へと学びをつなぐ。

【題材構成（7時間扱い）】

1次（1～2時間目）	2次（3時間目）	3次（4～7時間目）
旋律名人の道 その1『歌うこと』	旋律名人の道 その2『聴くこと』	旋律名人の道 その3『工夫して歌って、聴き合うこと』
それぞれの曲の『旋律』には、どんな特徴があるのかな？		
「とどけようこのゆめを」	「メヌエット」	「うさぎ」「ふじ山」
⑦を聴いたら、楽しい感じがする。 ①は、なめらかな感じに聴こえる。	歌詞がないから、色々な楽器が出てくるのかな。 2つの楽器だから、違う旋律なのかな。 ⑦と①は、どんな旋律かな？	歌詞は「はねる」だけど、曲はなめらかな感じがするよ。 「曲の山」がありそうだよ。
⑦と①は、どんな旋律かな？	⑦と①は、どんな旋律かな？	歌詞 どのように工夫して歌ったら、聴いている人に伝わるかな？ 旋律 情景 強弱（本時）
⑦と①を、どのように歌ったらいいかな？ ⑦の「わらってる」の部分は、音がゆっくり下がった後、階段みたいに上がっていく。 はずんでいるみたいに歌おう。	⑦は、①よりも音が長くて滑らかな感じがする。⑦は音が上がったり下がったりする。 ①は、はねている感じがするよ。⑦の旋律と比べたら、曲の感じがうね。	歌詞の言葉や旋律の上がり下がり、曲によって違うし、それぞれ曲のよさがあるね。 「曲の山」を見付けられたよ。「強弱」を使って工夫して歌いたくなったよ。 色々な曲で「曲の山」を探してみたいな。
それぞれの曲の「旋律」の上がり下がりの特徴が分かったよ。「旋律」の特徴に合う歌い方の工夫ができたね。		
6、せんりつのもじりかんじとろう		

【本時の目標】

「ふじ山」の歌詞の表す様子や旋律の特徴を生かし、強弱に着目して、表現を工夫しようことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（6/7）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
＜前時まで＞ 音の長さに合わせて歩いたり、手を上げ下げして音の高さを感じ取ったりする活動を通してこの曲の「旋律」の面白さや特徴に気付いている。曲の中で気持ちが一番盛り上がる場所「曲の山」は、音が高くなったり強くなったりすることが多い、という既習を生かして「曲の山」はどの部分なのか、一人一人が思いをもって見付けている。		
『ふじ山』のどの部分を「曲の山」にしたらいかな？ 歌詞の言葉から 「かみなりさまを下に聞く」ってどんな様子なのかな。 音が高くなっている「ふじは」のところかな。 楽譜の音の動きから 旋律がゆっくり上がっているところは、盛り上がる感じがする。 最後に出てくる高い「ド」は長くのびている。 旋律 「曲の山」の部分を、どのように歌ったら、盛り上がりが伝わるかな？ 作戦・練習タイム(部分練習) 強弱 「旋律」が高いところは、強くもり上げて歌いたいな。 「強弱」を使うと、「曲の山」ができそう。 交流タイム 強く歌っても響きを作ったらきれいに聴こえるね。 歌声ルーム 「ふじは」の「ふ」がきれいにのびていたよ。 「曲の山」が作れたね！ 「強弱」を使って歌ったら、「曲の山」の盛り上がりが伝わったね。 パワーアップタイム(通し練習)	曲全体を4つの段に分けておく。自分が「曲の山」とらえている段を1つ選び、その根拠を交流する。歌詞の言葉や、旋律の音の上がり下がりなどを柱に交流して、「曲の山」を盛り上げるように歌いたい、という思いにつなげる。 （視点1） 聴いている人に「曲の山」が伝わるように表現することを課題にし、そのための作戦（声の強さや出し方など）をワークシートに記入する。強弱をどのように使うか交流し、試して歌う時間をつくる。 （視点1） ペアになって歌声を聴き合う場を設定することで、お互いの「曲の山」の表現のよさに気付くようにする。 （視点2） 曲全体を通した時に、「曲の山」ではない部分の歌い方を工夫することで、より明確に「曲の山」を表現できることを交流する。自分の表現活動の見直しにつなげる。 （視点1）（視点2）	音楽を形づくる要素「旋律」「強弱」 声の出し方「歌声ルーム」
「曲の山」に向けて盛り上がりが伝わるように全体を歌えるかな？ 最初を弱く歌ったら、「曲の山」が盛り上がって聴こえそうだね。 声が小さくても、おでこのあたりにひびかせて歌おう。 ふりかえりタイム 他の曲でも「曲の山」を見つけて歌ってみたいな。 「曲の山」が見つけて、「強弱」を変えて歌ったら、聴いている人に「曲の山」が伝わるね。	工夫を生かした曲全体の歌唱表現へ	曲の部分練習を生かして、全体の通し練習につなげることで、よりよい曲全体の表現の工夫へと高められるようにかかわる。 （視点1）

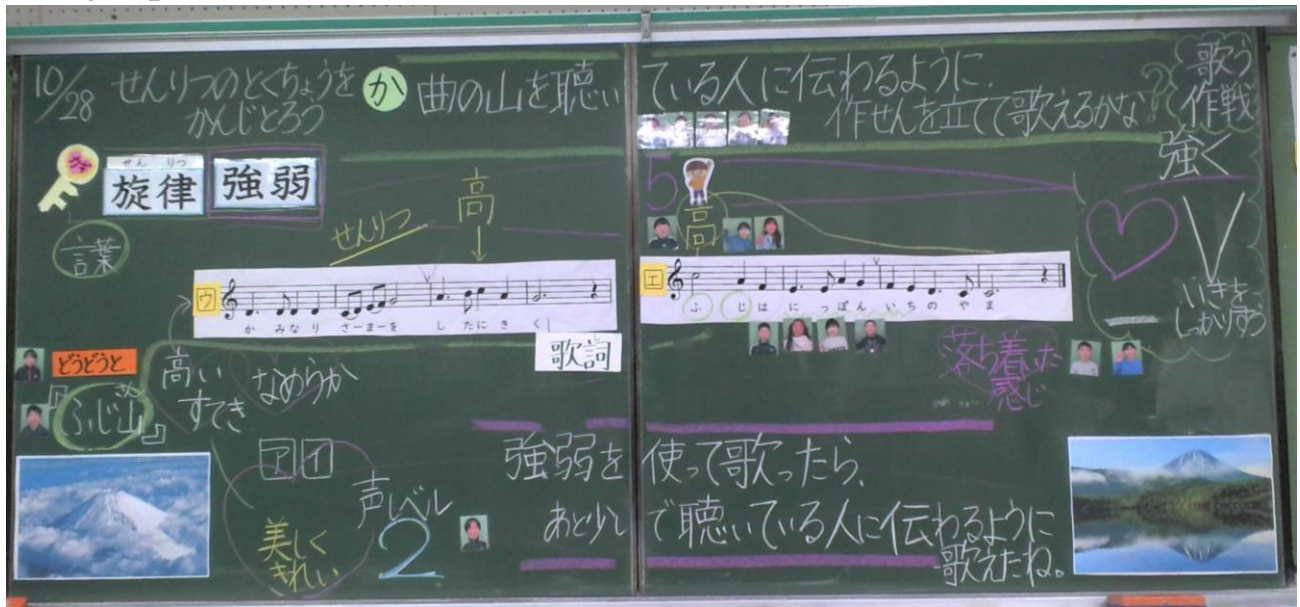
【本時の評価】

「ふじ山」の歌詞の表す様子や旋律の特徴を生かし、強弱に着目して、表現を工夫しようとしている。

（音楽表現・ワークシート）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 「歌唱」「鑑賞」を関連付けながら、音楽的要素「旋律」を段階的に発展させる題材を構成した。音楽的要素「旋律」を軸にすることで、子どもたちは、「この曲の旋律にはどんな特徴があるのかな、見付けてみたいな。」というような意志を、題材を通してもち続けながら、音楽活動に取り組む姿が見られた。
- 題材を通して図形楽譜による「旋律」の可視化、体の動きを伴った活動を位置付けることで、子どもたちは「旋律」と「旋律」を比較して特徴を捉えたり、その面白さに自ら気付いたり、より明確に聴き取ったり感じ取ったりする音楽活動につなげることができていた。
- 歌唱の表現を工夫する活動では、曲全体をいくつかのフレーズに分けて提示することで、「曲の山」を選んだり、「旋律」にも着目したりして、表現の工夫について思いをもつことにつながられた。

【課題】

- 工夫して「曲の山」を歌唱する学習では、「盛り上げて歌いたい。」と思いや意欲は見られた。しかし、どのように工夫したら「曲の山」を表現できるのか、既習を生かしながら思考する姿をねらったが、達成することができなかった。そこで、「〇〇の曲の時には、△△を使ってだんだん強くしていったから、この曲もこの作戦でできそう。」など、音楽的要素を使った技能を身に付けさせ、練習や経験を積む学習時間を確保することで、表現の工夫の選択肢が増え、意志をもった表現へとつながると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 歌詞の言葉や情景、「旋律」の音の動きを根拠に「曲の山」を見付けていく活動では、他者が発表した部分を体の動きを伴う活動で試したり、図形楽譜と結び付けたりして全体交流した。そうすることで、一人一人の気付きを「旋律」の特徴と関連付けながら価値付けることができた。

【課題】

- 「曲の山」を生かして表現を工夫する活動では、ペアになって歌声を聴き合い、表現を試したり取り入れたりして学びを深めていく姿をねらったが、達成できなかった。他者がどんな工夫をしているのか、そのよさに目が向くように教師が関わることで、他者から学んだ表現のよさを自分の工夫として取り入れる姿を引き出すことができたと考える。
- 「曲の山」の部分練習を生かして全体の通し練習につなげていく場面では、「他の部分につなげる時にもっと〇〇を工夫したい。」「曲の山は〇〇な感じになっているから、次も〇〇な感じで歌うと、よくなりそう。」と曲全体へと表現を工夫する姿をねらったが、達成には至らなかった。自分が工夫した歌唱がどのように聴こえるか、他者に聴いてもらいそのよさを自分で実感する時場の設定と時間の確保が必要である。そうすることで、自分の歌唱の変容を実感することができ、他者の学びが自らの学びにもつながり、音楽的価値を積み重ねることができると考える。

『せんりつの重なりを感じ取ろう』

令和7年11月27日(木)
児童 4年2組 30名
授業者 武田 若菜

【本題材で目指す意志をもっている姿とその理由】

旋律が重なることで新しい響きが生まれるよさを感じ、自分なりの思いや意図をもって他者と合わせて表現する姿

本題材では、自分や友達の歌声、楽器の音を聴き合いながらみんなで声や音を合わせて表現する能力をさらに伸ばし、旋律が重なり合うことで、新しい響きを味わうことができるようにする。子どもたちは日常的に身近にある様々な音楽に触れ、旋律が重なっていることを当たり前に味わっているが、そのよさや面白さ・美しさを実感して考える機会や自ら生み出す機会は少ないと考える。そのため、異なる特徴をもつ旋律の重なり合いや掛け合いを楽しむことができる鑑賞教材から取り上げ、表現に入っていく題材構成を工夫した。自分たちも音を重ねて表現したいという思いを出発点に自分の表現を他者と比べ、違いを見出し、よりよい表現を見つけることができるようにする。このような学びを重ねていくことで、自分が好きだと思える表現やそれに関わる楽しさや喜びを日常的に感じることができると考える。

【題材の目標】

- ・曲想と音楽の構造の関わりに気付き、自分なりの思いや意図に合った表現をするために、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- ・音の重なりを聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲全体のよさを味わって聴くとともに、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて自分なりの思いや意図をもてるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・旋律が重なり合う面白さに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

積み上がりを意識した題材構成の工夫

前題材から、音楽を形づくっている要素である「旋律」に絞ることで、「旋律」の特徴から、よさや面白さを実感できるようにしている。本題材では、異なる2つの「旋律」が重なる鑑賞教材から扱うことで、「旋律」が重なり合うことの面白さを実感し、その後表現に進むことで、自分たちも音を重ねて表現したいという思いをもてるようにする。それらによって、新しい響きを生み出すよさを感じられると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

旋律の違い・重なりを可視化

題材を通して図形楽譜による「旋律」の可視化をしながら全体交流し、2つの旋律の違いや重なりに注目している子を見取り考えを引き出すことで、音の上がり下がりや、旋律の重なり方に気づき、曲想に合う表現や合わせて歌うための工夫につなげられるようにする。そうすることによって、響きを作るために他者の旋律を聴きながら自らの表現を工夫する姿を生む。

【題材構成（9時間扱い）】

1次（1時間目）	2次（2～3時間目）	3次（4～5時間目）	4次（6～9時間目）
旋律が重なり合うと、どんな感じがするかな？			
『ファランドール』を聴いて、2つの旋律の違いを知ろう。	『パレードホッパー』で2つの旋律を重ねて歌ってみよう。	『オーラリー』で2つの旋律の重なりを演奏してみよう。	『もみじ』で2つの旋律を重ねて歌ってみよう。
旋律 音の重なり 王の行進は力強く迫力がある。王が偉そうに歩いているみたい。 馬のダンスは細かいリズムで弾む感じの旋律。馬が走っているみたい 2つの旋律がくり返しや重なりのおもしろさは？ 最後は2つの旋律が重なるね。迫力があるな。 王の行進と馬のダンスの旋律が交互に聴こえてくるね。 2つの旋律が重なることで新しい響きや音楽の深みが出るね。	2つの旋律が重なり合うおもしろさや美しさを感じ取って、どんな風に歌ったり演奏したりするといいかな？ 重ねて歌うと盛り上がるね。楽しい感じがするよ。 それぞれの旋律の歌い出しがずれるところに気をつけよう。 アの旋律は、スタッカートを意識して歌うと重なったときにおもしろいな。 イの旋律は、滑らかに歌うと違いが出ておもしろいな。 それぞれの旋律の特徴を生かして重ねて歌ったり演奏したりすると、新しい響きの音楽になるね。	どちらの旋律もきれいな旋律だね。 1の旋律がよくきこえるように、2の音量は小さくしよう。 友達の演奏はどんな工夫をしているのかな。 みんなで合わせると、きれいな響きになるね。	輪唱みたいに重なるね。歌い出しのタイミングを合わせるのが難しいな。 同じリズムで重なるね。音がしっかり合うと、きれいに響くね。 「かすあるなかに」の「に」で音が合うから、その縦をそろえよう。 音を伸ばしている間に相手の旋律を聴くようにしよう。 表現の楽しさやよさを実感。これからの表現活動へ。

【本時の目標】

もみじという曲の主旋律と副次的な旋律を重ねて歌うことを通して、音楽の縦と横の関係に気付き、2つの旋律を合わせて自分なりの思いをもって歌うことができるようにする。 【技能】

【本時の展開】（7/9）

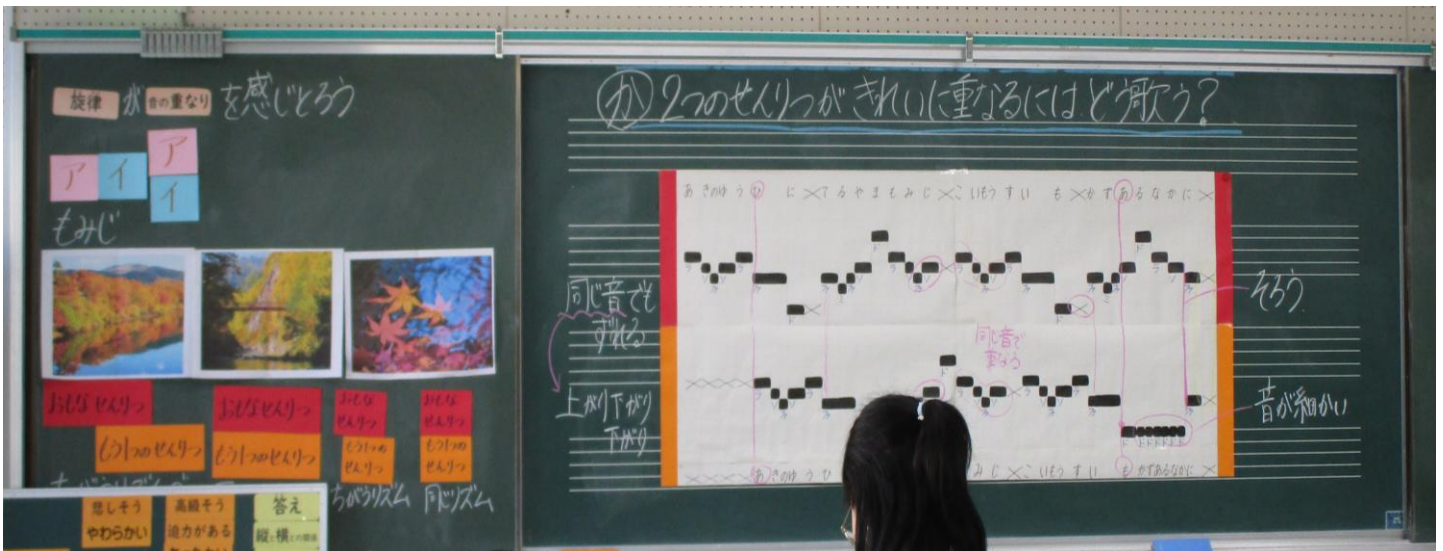
子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
＜前時まで＞ 「ファランドール」「パレードホッホー」「オーラリー」を通して、旋律が重なると、新しい響きが生まれることを実感している。「もみじ」を聴き、今までの重なり方とは違うことを理解し、上手に重ねて歌いたいという思いをもっている。		
○もみじの旋律・音の重なり方で気付いたことを確認する。 前半は二つの旋律が異なるリズムで重なるから、輪唱みたいだね。 後半は二つの旋律が同じリズムで重なるね。 「もみじ」の前半部分を歌ってみよう！		「パレードホッホー」を歌う場を設定することで、音楽を形づくっている要素や旋律の重なり方を捉えられるようにする。 （視点1）
どう歌うときれいに重なるかな？ ○歌うことを通してきれいに重なるためのポイントを出し合う。 違う旋律の歌声を聴きながら歌うときれいに重なりそう！ 自分はここを意識して合わせたいな！	音楽を形づくる要素 「旋律」 「音の重なり」	拡大図形楽譜と同じワークシートを用意し、工夫点を書き込めるようにする。そうすることで、他者の工夫を自分の工夫に取り入れることができるようにする。 （視点2）
ポイントを取り入れてペアで歌ってみよう ○2～3人のペアになり、2組のペアで聴き合って意識したポイントや感想を伝え合う。 合わせて歌うって難しいな。 その工夫いいな、自分達も取り入れよう。 全員で合わせると、どんな響きになるかな？ ○振り返り 友達と歌声を合わせることを意識して歌えたよ。 もっと歌い方の工夫をして歌いたいな。 全員で合わせてもっと美しい響きをつくりたいな。	 	歌う組と聴く組に分かれて、聴き合う活動を取り入れる。そうすることで、他者の思いに触れ、自分が考えたきれいに重なるためのポイントとの共通点や相違点に気付き、自分の考えを深めることができるようにする。 （視点2）
	歌い方の工夫へ	

【本時の評価】

音楽の縦と横の関係に気付き、2つの旋律を合わせて自分なりの思いをもって歌うことができている。
（行動観察・演奏聴取・発言内容・ワークシート）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 前題材から音楽を形づくっている要素を「旋律」に絞ったことで、「旋律」の特徴を見つける素地が育ち、それらが重なるよさや面白さを感じることができることにつながった。
- 題材構成の工夫として、鑑賞教材から扱うことで、重なり合う2つの「旋律」の違いを聴くことで感じ取りやすくなり、それぞれのよさや面白さを実感する姿が見られた。また、鑑賞後、「自分たちも音を重ねて表現していく」という見通しをもつことができ、意欲をもって取り組む姿が見られた。

【課題】

- 前時まで「2つの旋律を重ねることが難しい」という課題意識をもつことで、本時では「2つの旋律をきれいに重ねたい」という思いをもち学習に臨む姿を狙ったが、課題意識をあまりもたせることができなかった。そこで、前時に歌った歌を動画で撮り、それを授業の初めに聴くことで、課題意識をもって学習に臨む姿を引き出すことができたと考え。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 図形楽譜による「旋律」の可視化をしたことで、2つの「旋律」の重なり方や「旋律」の違い・共通点などの縦と横の関係に気付く姿が見られた。

【課題】

- 縦と横の関係に気付くことで、2つの「旋律」を合わせて歌うための工夫につなげ、自分の思いをもって歌うことを狙ったが、見られなかった。そこで、縦と横の関係に気付いた後、「どう歌うといいかな？」と問い返しをすることで、気付きを生かして、それぞれの旋律をどう歌うといいか考える姿を引き出すことができたと考え。
- 2ペアに分かれて聴き合う活動では、他者の思いに触れ、自分が考えたきれいに重なるポイントとの共通点や相違点に気付き、自分の考えを深める姿を狙ったが、見られなかった。そこで、目的意識をもって交流させ、困り感からくる交流なのか、達成感からくる交流なのか、はっきりさせることで、他者に聴いてもらいたい、他者からの意見が欲しいという思いを引き出すことができたと考え。